

第31回 抗議デモ・学習会

11月14日(土)

- 抗議デモ 午後1:30集合 1:50出発 烏山区民センター前広場
- 学習会 午後2:30開会 烏山区民センターホール

講演 「地下鉄サリン事件から20年」 — 被害者・被害者遺族の闘いから見る —

オウム真理教は無差別テロである、地下鉄サリン事件をはじめ、松本サリン事件、坂本弁護士一家殺害や、信者の殺害なども含め、亡くなった方の数は30余名とされています。地下鉄サリン事件は最も悲惨な事件で13名の尊い命を奪い、負傷者は6000余名となります。この事件により、今回の講師高橋シズエさんは、当時地下鉄霞ヶ関駅助役をしていた、夫一正さんを亡くされました。その後地下鉄サリン事件被害者の会の代表世話人として、被害者・被害者遺族の擁護の活動を始め、オウム真理教事件犯罪被害者救済法の制定や、被害者の救済に力を尽くしてきました。

講師：高橋シズエ氏



高橋シズエ氏の略歴

地下鉄霞ヶ関駅勤務の夫を亡くす
地下鉄サリン事件被害者の会代表世話人
オウム真理教犯罪被害者救済法のために活動
著書に『(犯罪被害者)が報道を変える』(共著 岩波書店 2005)
『ここにいること—地下鉄サリン事件の遺族として—』(岩波書店 2008)
『オウム真理教を検証する』(特別寄稿 春秋社2015)など

主催：烏山地域オウム真理教対策住民協議会

後援：世田谷区

講演内容：

- 高橋克也被告の裁判に被害者参加制度で参加して
- アンケート調査による現在の被害者の状況
- 今年3月の追悼行事
- DVD視聴 被害者の会の活動
または被害者へのインタビュー

烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

連載 オウム真理教と闘い続ける⑰ 稲吉千代子さんに聞く

インタビュー当日も含め、東京は連日雨が降り続くあいにくの天気。しかし、稲吉さんが雨具姿で颯爽と現れると、なぜか私も元気をもらおう。稲吉さんもそうだが、烏山地域で住民協議会の活動をしている人は皆元気である。オウム真理教が、烏山地域に居た当時を振り返って感じること「15年は長い、私たちも確実に15歳年をとった訳だし、これから若者にもっと関心を持ってもらい、早くバトンタッチをしたい」と言うが、その口調は前向きだ。活動の中で培った粘り強さとパワーがそうさせるのだろう。署名活動や、日常的に行っているイベントやお祭りでの募金活動にも積極的に参加してきた。活動の中で感じるのは「オウム真理教が来た当時

は、多くの人が関心を持って、最近では関心が薄れてきて、ピラの受け取りも悪くなり、募金活動でも呼びかけがいかないと反応が返ってこなくなってきた」「それでも募金をしてくれたり、署名に協力してくれた時はとても嬉しい」地道な活動だが、そんな一つ一つが地域の人に影響を与え支持され、15年という長い活動が継続できたという充実感が口調から滲みでていた。「デモはもっとコースを長くしたり、別のコースを歩くのも悪くないのでは」との提案も。「オウム真理教が烏山地域に居る間は、私も活動をやめつもりはないが、年齢の事もあるので細く長くをモットーに続けていきます」と終始明るく対応してもらった。

抗議デモ・学習会へのお誘い

オウム真理教との闘いもすでに15年が経過し、抗議デモも31回を数えることになりました。長い期間の闘いは、活動に参加していただく方々の年齢も必然的に高齢化してきました。今回の国会前での集会は、若者の参加で多くの人が刺激を受け、活動が高揚しました。烏山地域でもあのようにはいかななくても、若い世代の参加はオウム真理教に脅威を与え、活動が一層盛り上がる筈です。高齢者と若者がタックを組み、安心安全な烏山地域をつくるために、抗議デモ・学習会への参加を呼びかけます。

監視小屋便り

オウム真理教への監視活動は、現在39の団体（町会・自治会、小・中学校PTA、青少年地区委員会、商店会）の皆さんの協力を得て、ほぼ毎日監視小屋に立ち活動を続けています。

〈日誌より抜粋〉

- ・ 上祐が在宅、2階より外を見ている。上祐が裁判の準備中との事で外に椅子を出さず、監視小屋の中で時々外に出るくらいにして下さいとの事です(警察の人より)4/22
- ・ 上祐より直接抗議あり。①プライバシーの侵害だと3F以上の方々から苦情を聞いている。②不法侵入は足が少し入っている事、細かいことは良いのですが、この2点について協議会の方にお伝えください。上祐も住民協議会へ伝えるとの事です。4/30
- ・ 警察の勤務の人からの情報です。本日12時頃から定例のセミナーが行われる。信者は約10人前後集会すると思われる。5/3
- ・ 警察の方より、砂利の部分だけでなく、ごみ置き場の辺りに足を掛けて上祐ともめた事がある。またおしゃべりばかりして監視しているのかという疑問も投げかけられたそうです。監視当番の方がどのように監視するのが良いのか明確にしてあると良いと思います。車道も狭く椅子を出して監視するのもやや危ないかと思いました。5/7
- ・ タクシーでスーツ姿の男性2人が上祐を迎えに来て3人で外出、旧甲州街道方面へ向かう(警察官の指示により小屋に入って監視を行う)6/4
- ・ この中(監視小屋)に居て、これでお役に立つのでしょうか?安心して住める町になります様に協力を続けてい

きたいと思います。6/11

- ・ 警察の方から今日は皆出かけているので人がいないと思うが、監視小屋から見て下さいとの事でした。もう少しはつきりオウム信者の住んでいる場所を示す方が良い。垂れ幕の所は違うと警察の人に聞きました。6/17
- ・ 今日は、不在との事。2階の1番南側のドアが開け放された。人の出入りはなかった。7/21
- ・ 上祐含めメンバー(1名残る)は出かけているとのこと。7/28
- ・ 雨の為、小屋の中に居ましたが、雨が止んだので外に出て指示通りの場所に監視するため座りましたが、警察の方に「小屋の中にいて下さい」と言われ小屋に戻りました。いすに座ってほしくない様ですが、どうなっているのでしょうか。この監視をする意味があるのでしょうか?とても気分が悪くなります。この監視の有り方を考えていただきたいです。8/20
- ・ 2階廊下に上祐が出て来て北の角部屋に入る。男性信者が公安に声をかけて外出。この信者が女2人、男1人を連れて帰り、2階の上祐が入った部屋に案内した。私が帰るまで出て来なかった。8/28

現在、烏山のオウム施設には上祐を代表とするひかりの輪の信者達数名が居住しています。布教活動の為かひんぱんに他県へ出掛けて留守が多い様子ですが、気を抜く事は出来ません。監視活動は地道な活動ではありますが、「継続は力なり」です。今後も皆さんの協力を得ながら活動を続けていきます。ご支援・ご協力よろしくお願いたします。尚、屋外での監視場所については、成城警察との話し合いで監視小屋に掲示されている場所が確認されています。

烏山神社秋祭りで募金活動

9月23日・24日は、恒例の烏山神社秋祭りが大勢の人出で賑わい、特に23日は今までの長雨が止み、これまでにない秋日和に恵まれた一日となりました。当日は周りの皆さんから募金箱の設置を促されるなど、終始温かい心遣いをいただきながらの募金活動でした。これも15年という長期間

の住民協議会の活動が、地域の皆さまに根付いてきた証しです。住民の皆さまの暖かいご支援に、感謝の気持ちで募金活動を行うことが出来ました。住民協議会は、これからもオウム真理教事件を風化させないよう活動を続けていきます。

訂正

オウム真理教対策住民協議会ニュース(平成27年7月14日発行)の一面連載オウム真理教と闘い続ける⑯の掲載記事中段で、一部に誤解を招く表現があったため

「上祐らしき人物が会場に入ろうとしているのを見て、たまたま真後ろにいた私は、何でこの人がと思ひ瞬間的にその人物の背中を押していた」に訂正いたします。

住民協議会活動報告

9月18日(金) 実行委員会
9月23日(水)～24日(木)
烏山神社秋まつりで募金活動
9月28日(月) 協議会ニュース149号初校正

10月5日(月) 協議会ニュース149号再校正
10月6日(火) 事務局会議
10月12日(月) 協議会ニュース149号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。